



東六小 支援本部だより

令和5年度 no9

発行：東六番丁小 学校支援地域本部

事務局 TEL022-222-4216 (学校)

070-1287-7996 (支援本部)

sendai_gako_sien001@softbank.ne.jp

北校舎1階 学校支援地域本部室/鹿野

～ 東六の歴史と民話 (3年生) ～

自分たちが住む宮町について学習している3年生。これまで東照宮の見学や宮町七タへの参加を通して地域の文化や大切なものなどを体感してきました。今回は東六の歴史を福沢市民センターの茂庭館長から、宮町に伝わる民話を市民センター読み聞かせボランティア「ちっちゃなおはなし会」のメンバーの皆さんからそれぞれうかがいました。

『東六の歴史』(福沢市民センター 茂庭館長のお話)

東六小ができる前、ここは東照宮のお飯の宮が置かれた森。150年前の東六小は小田原小学校と呼ばれ、周りは田んぼだったそうだよ。東六に伝わる「お借りの宮の化け石」は、昔、桜の木が弱ったので土を入れ替えたときに土の中から出てきたと言われているよ。学校近くの花京院橋は市電が通っていたけど、校歌にうたわれている「世の中だんだん開けます」とは、今後の町の近代化を表していたんだね。



『宮町の民話』(読み聞かせボランティア「ちっちゃなおはなし会」)

今回は紹介していただいたのは「お飯の宮の化け石(東六)」「娘と婿ぎる(東照宮)」「お米蔵の初三郎(原町)」「小田原のキツネ(小田原)」の4つ。どれも楽しいお話ですが、化け石(キツネ)には侍が切った刀傷が残っていると…宮町にはキツネが多く棲んでいたようです。他に足がじょうぶになる神社(延寿院)の紹介もあり、「昔キツネやお侍が通った道を今もみんな歩いている…ということは歴史はつながっている。」と話していました。



茂庭館長は東六小の卒業生。歴史のお話の中にはご自身の入学時の記念写真が登場し、当時の木造校舎や学校の様子など教えていただきました。また、昭和元年と昭和40年の東六地区の地図を見ながら「学校の周りにはお菓子屋が多く、周りにも商店やアイスキャンディー屋(氷屋)などがあり、活気づいていた。」と懐かし気に語っていました。

ちなみに、東六小は創立150年ですが、宮町の阿部幸みそさんは今年創業160周年とのこと！子供たちがこの歴史と文化の宮町・東六を地域の人・モノから学び、さらに先の時代につないでくれることを願っています。

